

平成29年

京田辺市議会定例会
代表質問通告書

京田辺市議会

平成29年 京 田 辺 市 議 会 代 表 質 問 通 告 書 目 次

通告順位	会	派	名	ページ
1	一	新	会 (奥西 伊佐男)	1
2	日本共産党京田辺市議会議員団		(西畑 利彦)	4
3	みらい京田辺		(米澤 修司)	7
4	公	明	党 (河田 美穂)	9

1 本市が新年度に掲げている「防災拠点等整備事業」計画の概要について問う

本市では新年度の5つのキーワードの中で安全安心に関係する事業として備蓄機能を併せ持つ「防災広場」の整備を進めるとしているが、防災拠点等整備事業としてどのような規模の施設を計画しているのか。

また「防災広場」の今後の土地利用計画と整備スケジュールについて問う。

2 本市の3拠点である北部・中部・南部エリアのまちづくりに伴うそれぞれの取組の現状と課題についての見解を問う

(1) 北部エリア

将来を見据えた山手南地域の小学校予定地について近い将来児童数の減少に伴い、地元住民からは従来の計画である小学校建設以外の有効活用を検討しては、との気運が高まっている。地域住民の声を十分聞いて、長期ビジョンと経営手腕という視点で既定路線を見直す時期と考えるが市長の見解を問う。

(2) 中部エリア

施政方針にも掲げているコンパクトシティ形成に向けた市街地整備を進めるにあたり、府の田辺総合庁舎北側に新たな複合型公共施設と商業施設を核として計画を推進していくとのことであるが、本市の「立地適正化計画」を推進する中で都市機能増進施設整備も積極的に組み入れ、総合的・計画的な土地利用を実現できるコンパクトシティを目指して欲しいが市長の見解を問う。

(一新会)

(3) 南部エリア

安全安心をキーワードとして都市基盤整備や交通安全対策と交通事故防止の取組を進められているが、遅れていた南部地域の整備事業もそれぞれ完成目前となってきた中で、都市計画道路の市道南田辺三山木駅前線の持つ役割は大動脈として極めて重要な部分を占めている。一日も早い供用開始が望まれ、期待しているところであるがその時期と効果について問う。

3 組織機構改革により市長直轄の組織として設置される「輝くこども未来室」について問う

教育部と健康福祉部にまたがる現行の幼・保体制の課題克服のために、「幼保連携推進会議」を発足させ検討を重ねてこられたと聞くが、今回新しく設置される「輝くこども未来室」の前提となるこれまでの経過を踏まえ、本市の特性と現在の課題、及び今後の方向性について問う。また、「輝くこども未来室」というネーミングにした理由と組織名に込めた想いは。

4 本市は20周年を迎えさらなる発展を期待するところであるが、今後ますます行政需要の増大が予想され、適正な財政運営が求められる中で、どのような施策に取り組もうとしているのか、また基金の保有状況と課題について問う

(1) 近年は、異常気象でいつどこにゲリラ豪雨が発生するか予測できない現状にあり、災害による不測の事態に備える必要がある。

加えて今後も文化振興計画等、コンパクトシティ構想や可燃ごみ処理施設整備等への大きな財政需要や本市の発展に伴い、さらに財政負担が強えられることも予想されるが、市の見解は。

(2) 今後はあらゆる事象に対応出来るよう将来に備えた持続可能な財政運営が不可欠となるが、標準財政規模からみた本市の財政調整基金は十分な保有状況にあるのか、その現状について問う。

(一新会)

5 北陸新幹線京都新大阪間のルートに関して年度内(今月中)に決定すると聞いているが南部ルートに決定した場合の市長の考えを問う

- (1) 京都府や京都南部の首長をはじめ、関係団体等が中心となり「北陸新幹線南部ルート誘致促進同盟会」が発足している。報道によると京都～新大阪間のルートは、南部ルートと北部ルートが検討中でどちらかに決定するようだが、仮に南部ルートになれば本市が将来大きく様変わりする大転換期となる。市長の見解は。
- (2) 本市の飛躍的な発展と次世代への贈り物として歓迎する一方で、誘致に向けては多くの課題を抱えることになるが、今回持ち上がった国の大事業に対して南部地域の中でも重要な役割を担う本市の長として市長はどのように受け止め、今後どのように対処していこうとしているのか問う。

1 政治経済社会情勢について

- (1) 自衛隊が戦争法＝安保法制により「戦闘状態」の南スーダンに駆け付け警護を付与されてPKO派遣されているが、市長の認識を問う。また、テロや北朝鮮の核開発に対して日本が役割を果たすとのことであるが、どのような役割を考えているのか。
- (2) 今年は憲法施行70年の節目の年、京田辺市長として現憲法をどのように生かされ、今後どのように生かしていくのか、市長の考えを問う。
- (3) 本通常国会に提出されようとしている共謀罪「テロ等準備罪」は、現代版治安維持法とも指摘され過去3度廃案になったものである。共謀罪について市長の認識を問う。
- (4) 地球環境と国民生活を守るには、原発を再稼働せず、廃炉にし、再生可能エネルギーに施策転換すべきと考えるが、市長の考えを問う。
- (5) 国内の経済状況と本市の経済・くらしの実態について、市長の認識を問う。また、国に対して地域経済を支えるうえでどのような施策や要望を行っているのか。

2 市政運営の基本方針について

- (1) 国からの社会保障費が削減される中、市民の暮らしを保障し応援することが重要と考えるが、本市の生活実態と社会保障における課題について市長の考えを問う。
- (2) 北陸新幹線「延伸」は、本市のまちづくりのなかでどのような位置づけなのか。また、本市事業負担・環境への影響を検討すること無しに、推進を前提とすることの是非を問う。
- (3) 北陸新幹線「延伸」よりもJR線の複線化やバス路線、歩車分離歩道等の生活基盤整備を優先すべきと考えるが、市長の考えを問う。

- (4) 本市農業を守り、安全安心の食材と自給力確保に向け、農家育成・農地基盤整備等の農業支援策をどのように考えているのか、市長の考えを問う。
- (5) 「新行政改革プラン」の推進にあたり、これまでの行政改革での検証結果による実態を問う。また、今後においても市民サービス・福祉・安全安心施策などの低下は許されないと考えるが市長の考えを問う。

3 重点施策について

- (1) くらしの応援・福祉の充実施策について
- ア 介護保険料と利用者負担軽減に向けた施策を講じるべきである。
- イ 医療費軽減では、府に対しマル老制度の改悪を改めて、元の制度へ戻すよう求めるべきである。
- ウ 都市計画税に伴う事業は、抜本的に見直し、廃止すべき。当面、0.2%へと税率を引き下げるべきである。
- エ 粗大ごみ・持込ごみの有料化は廃止すべきである。また、新たなごみ分別収集での取り組み結果と課題を市民に示し、意見を聞くべきである。
- (2) 地域経済の活性化と住環境改善について
- ア 住宅や事業拡大に伴う開発、また臨時的土地使用などの行為についても、常に監視を行い、近隣の住環境を守る立場で指導と規制を強化すべきである。
- イ 立地適正化計画において、国のモデルイメージは「歩いて暮らせるまちづくり」が示されているが、本市では、3地区内で歩いて暮らせるエリアはどのように考えているのか。また、田辺地区の実施に向けた具体的な計画スケジュールを明らかにされたい。

ウ 本市経済を支える中小企業の現状を捉まえ、長期的展望を見いだす施策の展開が求められている。

a 住宅リフォーム助成制度拡充

b 中小企業融資利子補給制度の上乗せ分の継続

c 中小企業振興基本条例の制定

エ 公契約条例の制定。

(3) 教育について

ア 中学校給食は「選択式デリバリー弁当」ではなく、小学校と同様に自校直営方式で早期実施すべきである。

イ 人口8万人構想を実現できる教職員体制と学校施設の修繕・改修を具体化した事業計画を作成し実行すべきである。

a 30人学級に見合う配置

b 特別支援員の増員・図書館司書（1名）の各校配置

ウ 留守家庭児童会・保育所・幼稚園での待機児童は、年度を通じて解消するよう施設と体制を確保するべきである。

エ 幼稚園全保育室へエアコンを設置すべきである。

(4) 文化社会形成について

本市文化振興計画で示す、新たな文化施設（文化ホール）の進捗状況を明確にすべきである。

(5) 職員研修について

自衛隊における職員研修は中止すべきである。

<p>1 安心・安全のキーワードについて</p>
<p>(1) 大規模災害拠点・防災広場について 規模、設置を考えている施設、平時の活用について問う。</p> <p>(2) 耐震シェルターの設置助成について 助成基準、助成額、想定件数を問う。</p> <p>(3) 消防体制の充実強化について 消防指令システムの概要、および他の自治体との負担割合を問う。</p>
<p>2 緑のキーワードについて</p>
<p>(1) 緑の公園整備について 完成年度、運営主体、どのような施設となるのかを問う。</p> <p>(2) ごみ減量化の取り組みについて 現在の状況と課題について問う。</p>
<p>3 健康のキーワードについて</p>
<p>(1) 幼保連携の強化について 現状と課題、今後の方向性についての考え方を問う。（この間の幼保連携、29年度の保育所待機児童の状況、29年度の市立幼稚園の入園予定数、近隣市を含む民間幼稚園への入園状況）</p> <p>(2) 「輝くこども未来室」について 設置に至った経緯、目的、方向性について問う。</p>

(みらい京田辺)

4 文化教育のキーワードについて

民俗資料や発掘された埋蔵文化財を含む、収集した歴史資料の保存、公開についての考えは。

5 自然と調和したまちづくりについて

「中小企業売り込み隊」の総合的強化について
今後の取り組みについて問う。(中期的な取り組み含めて)

6 新行政改革プランの推進について

人材育成と持続可能な財政構造の構築について、市の考えを問う。
(非正規職員が多くなっている現状、多すぎる超過勤務、職場の複雑な職員構成と職員のやる気、やりがい、未来を担う人材育成について、事務事業の徹底した見直しをすることについて)

1 基本政策と市政運営の視点について

- (1) まちの魅力である交通利便性を最大限に生かしながら、人口動向や超高齢化社会を見据えた独自の取組みとはどのような施策を考えているのか問う。
- (2) 新たな財源確保とまちの活性化を図るための施策を問う。
- (3) 新たに市長直轄の組織として「輝くこども未来室」を設置されるが、この部局の担う役割を問う。
- (4) 施策推進と市民サービス向上の担い手となる職員をどのように育成していくのか問う。
- (5) 大学が持つ豊富な人材や知的資源をまちづくりに生かす具体的な構想を問う。

2 予算編成方針について

- (1) 昨年より新規事業については「スクラップ・アンド・ビルド」を原則とするとされてきたが、昨年は事務事業の統廃合や見直しにどのように取り組まれ、それをふまえて今後どのように取組み、必要な財源を確保していくのか問う。
- (2) 市制20周年を契機に各種事務事業の総点検はどのようにされるのか問う。

3 「安全・安心」をキーワードとした取組みについて

- (1) 備蓄機能を併せ持つ「防災広場」はどのような規模・設備を想定しているのか問う。
- (2) 「地域版防災マップ」の作成に取り組んでいただける地域を広げる施策を問う。

(公明党)

(3) 消防団などの地域防災力の強化にどのように取り組むのか問う。

4 「緑」をキーワードとした取組みについて

(1) 京都府農業総合研究所の跡地を活用した公園整備はどのように進めていくのか問う。

(2) ごみ減量化に向け、市民の自主的な取組みとの連携強化をどのように図るのか問う。

5 「健康」をキーワードとした取組みについて

(1) 子育ての各種情報を盛り込んだ「子育てガイドブック」はどのように、いつごろ作成出来るのか問う。

(2) 増え続ける保育ニーズに対応するため河原保育所の隣接地に仮設園舎を増設するとあるが、保育士の確保はどうするのか。又、幼保連携の強化で幼稚園の空室を利用した保育は考えているのか問う。

(3) 16歳から29歳までの健診を受ける機会がない方に新たに健診を実施するとあるが、受診率を上げていくための対策は考えているのか問う。

6 「文化・教育」をキーワードとした取組みについて

(1) 教育委員会と小・中学校が連携しての新たな研究事業とはどのような取組みなのか問う。

(2) 5歳児を対象とした市独自のカリキュラムとは具体的にどのように作成するのか問う。

7 「田園都市」をキーワードとした取組みについて

(公明党)

- (1) バリアフリー社会の実現に向けてハード・ソフト両面での施策の展開をどのように図ろうとしているのか問う。
- (2) 「中小企業売り込み隊」の活動を総合的にどのように強化するのか問う。
- (3) 「お茶の京都博」の様々なイベントを活用してどのように観光客を呼び込もうとしているのか問う。